

土木学会「見える化データ」 2012(一般向け案)

- ・土木学会は、2014年に創設100周年を迎える公益社団法人です。
- ・学会個人会員数は約30,000人、その多くは企業に所属する土木技術者です。
- ・土木学会には、30以上の研究委員会が設置され、多くの学会員が参加し活発に活動しています。
- ・ここでは、土木学会の活動のうち、社会支援、社会とのコミュニケーション、社会への直接的貢献を目的とした活動などを抜粋して照会します。
- ・多くの皆様にご覧いただき、開かれた学会として、より良い方向へ発展し続けていきたいと考えております。

<掲載データ一覧>

<社会支援>

災害調査団派遣

<社会への直接的貢献>

イブニングシアター

トークサロン

<社会とのコミュニケーション>

小中学校学習支援(理科・社会・総合)

支部活動実績

<学会からの発信>

土木学会からの宣言・提言

2012年7月31日現在

<災害調査団派遣>

- ・土木学会では、国内外を問わず大災害が発生した際に、発災後ただちに災害対策本部を設置し調査団を派遣して、専門的調査を行い、学術的、技術的見地からメカニズムの解明と防災上の提案を行っています。
- ・特に東南アジアを中心とする海外へは、1999年から2011年の間で、24か国、延べ31回、延べ339人もの調査団を派遣しています。

<海外調査団リスト>

国際派遣	調査団派遣数 (回)	延べ団員数 (人/年)	派遣国・地域等
1999年	2	32	台湾、トルコ
2000年	1	7	メコン河
2001年	3	27	エルサルバドル、インド、ペルー
2002年	2	35	イラン、ヨーロッパ
2003年	2	15	トルコ、アルジェリア
2004年	1	11	イラン
2005年	4	67	スマトラ、アメリカ、パキスタン、インドネシア
2006年	2	21	ジャワ島、スマトラ
2007年	3	22	ペルー、スマトラ、バングラデシュ
2008年	3	11	インドネシア、中国、ミャンマー
2009年	4	47	イタリア、台湾、インドネシア、フィリピン
2010年	2	24	チリ地震、クライストチャーチ地震
2011年	2	20	タイ(水害)、トルコ(地震)

<イブニングシアター>

- ・土木学会では、「イブニングシアター」として一般の方を対象とする、土木技術に関する無料の映画会を定期的に開催しています。
- ・2001年11月から2012年1月までの間で74回開催し、延べ9,432人の方に参加していただきました。
- ・参加者が多い上映プログラムのベスト5は次のとおりです。

順位	上映タイトル	延べ参加者数(人)
1	佐久間ダム、黒部の太陽(短縮版)	2,100
2	荒川放水路物語～川がはぐくむ暮らしと文化 他	769
3	パッテンライ!!南の島の水ものがたり 他	680
4	街の一体化と安全のために 目黒線不動前 他	670
5	余部鉄橋の記憶 他	418

<トークサロン>

- ・土木学会では、一般の方も対象として、時々社会で注目されている土木工学に関連する話題について、講師をお招きしてお話をいただき、参加者の方々との懇談・討議をしていただく「トークサロン」を定期的を開催しています。（参加費は飲み物・軽食付きで1回2000円となっています。）
- ・2003年4月の第1回から2012年2月の第33回まで、延べ1,265人の方に参加していただきました。
- ・参加者が多いテーマのベスト5は次のとおりです。

順位	テーマ	参加者数(人)
1	高速道路民営化の議論と社会資本	100
2	官から民へー首都高の課題と取り組みー	65
3	最近の社会資本に関する論議について	63
4	ダム計画を考える	63
5	公共事業をどうとらえるべきか	61

<小中学校学習支援(理科・社会・総合)> 土木学会では、小中学校の総合学習および理科・社会などの教科教育において、活用して頂ける教材や出前講座等の提供・支援を実施しています。

時期	地域	対象学年	概要	写真	支援形式	支援団体
2012年6月	栃木	小学校5年生	環境問題について ① 身近な例を挙げ、コンクリートに関する技術についての学習 ② コンクリートが人々の生活環境に対して果たしている役割について学習 ③ 実際にコンクリートの材料などに触れ、鉢植えを作りの体験		出前講座・実習	キッズプロジェクト検討小委員会
2011年10月 ～2012年1月	東京	小学校4年生	多摩川を題材に ① 水質調査(水の汚れ調べ)の学習 ② 水辺の動植物の観察についての学習		出前講座・実習	キッズプロジェクト検討小委員会
2007年7月	神奈川	小学校5年生	中庭に構築中のピオトープに川を設けるにあたり、何を考えて川の作成をするべきかを学ぶ。「川の出来るまで」「重力の役割」など。		出前講座 屋外、実習形式	生涯学習小委員会
2006年6、7月	栃木	小学校	宇都宮大学工学部の大学院生による、“コンクリートの説明(講義)”と“モルタルづくり(実験)”に関する約140分の出前授業。モルタルで壁飾りなどを製作。		出前講義・実習	関東支部 栃木会
2006年5月	栃木	小学校	宇都宮工業高校の土木研究クラブの高校生による、環境問題に関する自作の紙芝居公演(講義)と清涼飲料水のpH試験(実験)を組み合わせた約50分の出前授業。		出前講義	関東支部 栃木会

詳細は、総合学習支援のページ: http://www.jsce.or.jp/committee/education/syougai/sougou/jirei_v2.htm

<支部行事開催実績(開催日順)> 土木学会には、全国8箇所の支部があり、市民から土木への理解とご意見をいただく機会として、各種行事を開催しています。

開催日	行事名	開催場所	概要	写真	参加者数	支部名
2011年7月28日	平成23年度 親子バス見学会	東九州自動車道 トンネル現場 遠賀川水辺館	「土木」への理解を深めてもらうこと を目的に、小学生を対象とした 「親子見学会」		大人13名 子供14名	西部支部
2011年8月27日	第17回 コンクリート大会	荒川調整池「彩湖」	土木の主材料によるコンクリートでカーヌを作り、もの づくりの楽しさを実感してもらうための、コンクリートカ ーヌ大会。		約480名	関東支部
2011年10月16日	PRイベント	北見市 北見文芸ホール	土木に関するPRのため、パネル展示や子供向けの緑 日や記念品を配布した。土木に関する相談に応じアド バイスする。		約700人	北海道支部
2011年11月25日	市民対象講座 「東海・東南海・ 南海地震に備えて」	名古屋 通信会館	「大規模震災発生時の緊急対応について ～阪神・淡 路および東日本大震災からの教訓を生かして～」 「液状化を考える ～東日本大震災の分析と課題を通じ て～」		127人	中部支部
2011年11月26日 ～27日	●土木の日 特別行事 東日本大震災に関 するパネル展	宮城県 仙台市 仙台 駅コンコース	テーマ「3.11早期復旧への記録」とし、東日本大震災に 関するパネル展を行なった。		12,000名	東北支部
2011年11月21日	ハイウェイ ちひっこセミナー (西日本高速道路㈱ 中国支社と共催)	西日本高速道路㈱ 中国支社	高速道路の役割やコンクリート試験練り体験や強度試 験を見学して、地域の暮らしを支える「土木」について 考えた。		259名	中国支部
2011年12月12日	南海地震四国地域 学術シンポジウム	香川県 サンポートホール 高松	四国の各行政機関の東南海・南海地震対応への取り 組みの紹介と各研究機関が有している学術・技術研究 の現状と東南海・南海地震研究に向けた今後の課題 を検討する。		一般125名	四国支部
2011年2月24日	平成23年 台風第12号による 被害調査報告会	ドー ンセンター	平成23年9月に発生し、紀伊半島を中心に甚大な被害 をもたらした「平成23年台風第12号」の被害状況に関 する調査結果等の報告を行った。		231名	関西支部

＜土木学会からの宣言・提言＞

- ・土木学会は、関係学協会とも連携して、社会に向けて各種の提言等を行っています。
- ・2010－2011年度の提言内容は次のとおりです。

日 付	提言等名称	内 容
2011年5月	宣言：公益社団法人への移行にあたって	人々の安全を保障し、文化・芸術の発展を目指す総合的な営みが「土木」である。したがって「土木」という営みは本源的に「公益」に資するものであり、「土木」に従事する技術者や研究者等は、本質的に「利他的・倫理的・公共的」であることが求められている。 土木学会は公益社団法人への移行にあたり、土木学会の公的な責務を改めて認識し、土木学会員のための「公益」のみならず、土木界並びに社会に対する「公益」の新たな展開のため、土木学会が貢献できる対象の拡大とその内容の充実を図りつつ、公益社団法人に相應しい形態でその諸活動を全面的に展開していくことを、宣言するものである。
2011年3月23日	土木学会長・地盤工学会長・日本都市計画学会長 共同緊急声明「東北関東大震災－希望に向けて英知の結集を－」	・国土や都市及び社会基盤を専門とする技術者・計画者として、この難局に立ち向かいたい。 ・技術者・計画者集団としてなすべきことは、まずは、震災の調査分析および今までに積み重ねてきた対策の再評価。次に、急がれる緊急復旧への実行性のある提言及び恒久復興への提言、さらには国土の危機管理を念頭に置いた社会システムの再編等である。 ・想定外という言葉を使うとき、専門家としての言い訳や弁解であってはならない。 ・巨大地震に対しては、先人がなされたように、自然の脅威に畏れの念を持ち、ハード(防災施設)のみならずソフトも組み合わせた対応という視点が重要であることを、あらためて確認すべきである。 ・当たり前のように享受してきた、電力、輸送体系のマネジメントシステムの見直しもわれわれが取り組むべき課題であろう。 ・そして、何よりも皆が待ち望む力強い地域の再生を実現しなければならない。
2010年7月30日	29学会(43万人会員)会長緊急声明－我が国の科学・技術の進むべき方向と必要な政策－	「科学・技術による力強い日本を実現するための大学・研究機関の強化と予算措置を求める」 1.研究教育予算・投資の維持・改善 2.多様な評価・価値観の導入 3.女性・若手研究者支援と奨学金の充実 4.政策決定への学会からの意見表出
2010年4月30日	26学会(41万人会員)会長声明 科学・技術による力強い日本の構築－我が国の科学・技術の進むべき方向と必要な政策－	(A)研究教育予算・投資の改善 (B)研究資金の過度の集中の是正と多様な評価・価値観の導入 (C)女性・若手研究者支援と奨学金の充実 (D)その他(学術法人、科学・技術の日、政策決定)
2010年1月19日	日本学術会議土木工学・建築学委員会・土木学会・建築学会・日本コンクリート工学協会 緊急提言 提言1. 科学的論拠と合意形成にもとづいた社会基盤整備の推進 提言2. 地球温暖化の緩和策に向けた建設分野からの具体的取り組み	・「コンクリートから人へ」の標語の趣旨は「人間重視の社会基盤整備」と考えます ・人間重視の社会基盤整備にあたっては、建設分野のみならず国を挙げての取り組みが必要です 「CO2等排出量2050年までに60%削減目標」に対する提言「地球温暖化対策への建設分野からの具体的取り組み」 ・国土計画および交通・運輸計画からのCO2等排出量削減 ・建設分野のCO2等排出量削減 ・温暖化対策技術の海外支援